

## 改善報告書

令和元年7月12日

1. 大学名：福山大学

2. 認証評価実施年度：平成29年度

### 3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：2-1

○経済学部国際経済学科、人間文化学部メディア・映像学科、工学部スマートシステム学科の収容定員充足率が0.7倍未満であるため、改善が必要である。

### 4. 改善状況及び結果

基準項目2-1について

本学は、大学教育の質保証に資するため、本学独自の自己点検評価活動を毎年実施して、常に教育・研究及び大学運営の改善に努めている。その成果として、最近5年間に、福山大学全体の収容定員充足率は著しく改善している【資料2-1-01】。これは大学全体で取り組んできた教育改革の推進に加えて、魅力ある研究の展開【資料2-1-02】、教職員・在学生の社会的活躍【資料2-1-03】、地域の高等学校との信頼関係の構築【資料2-1-04】、積極的な大学広報活動等による入学生の増加に加え、きめ細かい学生指導による離籍者数の抑制【資料2-1-05】、平成28(2016)年度に実施した収容定員の適正化等の効果である【資料2-1-06】。平成27(2015)年度の大学全体の収容定員充足率は0.685であったが、令和元(2019)年5月1日現在の大学全体の収容定員充足率は0.924にまで改善している。この傾向を持続させるため、平成30(2018)年入試広報室に入試戦略主管を配置すると共に広報担当参事を増員する等して入試戦略の改善に努めている。また、受験生の動向調査、入試データ等を活用して学生募集力の強化を図るため、平成30(2018)年度にIR(Institutional Research)室を開設し専任教員を配置しているところである。

本学は、平成29(2017)年度の日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、基準2-1において、3学科の収容定員充足率が0.7倍未満であるため、“改善を要する点”として指摘を受けている。本改善報告書では、3学科の収容定員充足率改善に向けた取組と現況について報告する。

- (1) 経済学部国際経済学科の令和元(2019)年5月1日現在の収容定員充足率は、0.850であり、大学機関別認証評価受審時の平成29(2017)年5月1日付の収容定員充足率0.473から大幅に改善している【資料2-1-01】。また、令和元(2019)年度の入学定員充足率は0.980と改善している【資料2-1-07】。入学生数増加の要因として、①平成28(2016)年度から、それまでの経済学部一括入試から学科別入試に変更したことで、国際経済学科の特徴を明確にできたこと、②指定校(グローバル人材強化)入試の実施【資料2-1-08】、③国際経済学科のトップ10カリキュラムや充実した海外研修制度等の取組が受験生に評価されていること【資料2-1-09】、等が挙げら

れる。さらに、平成 28 (2016) 年度に入学定員 60 人を 50 人に変更し、収容定員を適正化した結果でもある【資料 2-1-06】。

(2) 人間文化学部メディア・映像学科の令和元 (2019) 年 5 月 1 日現在の収容定員充足率は、0.675 であり、大学機関別認証評価受審時の平成 29 (2017) 年 5 月 1 日付収容定員充足率 0.465 から大幅に改善している。最近 5 年間のメディア・映像学科入学者数は【資料 2-1-07】に示すように着実に増加しており、平成 30 (2018) 年度及び令和元 (2019) 年度の入学定員充足率は、それぞれ 0.720 及び 0.800 にまで改善している。入学生数増加の要因として、① 平成 28 (2016) 年度に学修内容が分かり易い学科名称に変更したこと、② 魅力ある取組が評価されていること【資料 2-1-10】、③ 指定校 (芸術・メディア表現枠) 入試の実施【資料 2-1-11】、④ 海外協定大学からの編入学試験の実施【資料 2-1-12】、等が挙げられる。海外協定大学から編入学した令和元 (2019) 年 5 月 1 日現在の在籍者は、2 年次生 5 人、3 年次生 4 人、4 年次生 2 人である。令和元(2019)年度後期に入学希望者がおり、収容定員充足率の更なる改善が見込まれる。

(3) 工学部スマートシステム学科の最近 5 年間の収容定員充足率は、【資料 2-1-01】に示すように 0.3 前後で低迷し、深刻な状態が続いている。同学科の前身である電子・電気工学科は、昭和 50 (1985) 年 4 月の本学開学と同時に設置された。社会の変化や受験生の動向に対応するために、平成 21 (2009) 年度に電子・ロボット工学科に学科名称を変更、更に平成 26 (2014) 年度に現学科名称に変更して今日に至っている【資料 2-1-13】。これまでに、数多くの卒業生を社会に送り出し、“地域社会の中核となる幅広い専門的職業人の育成” という本学のミッションを実践してきた。本学が所在する備後地域は、製造業を主としてオンリーワンあるいはナンバーワンと評価されている中小企業の集積地であり、関連分野の人材需要は旺盛である。このような状況下、スマートシステム学科による人材育成への期待は大きい。“スマートシステム”という言葉は、これからの社会で広く汎用されると予想されるが、現時点での認知度は十分ではない。そこで、“スマートシステム”の概念の啓蒙に努めると共に、同学科での学修内容を分かり易くするため、電力系統、電気機械分野の電気技術者を育成し、電気主任技術者の資格取得を目指す「電気工学コース」及び“安心・安全な暮らし”を支える“スマートテクノロジー”を学ぶ「電子システムコース」の 2 つのコースを令和 2 年度より設定する【資料 2-1-14】。さらに、令和 2 (2020) 年度から入学定員 50 名を 30 名に変更し、収容定員の適正化を図ることとしており、収容定員の変更届を平成 31 (2019) 年 4 月に文部科学省に届出て受理されている【資料 2-1-15】。このような取組が収容定員充足率の改善につながることを確信している。

## 5. エビデンス (根拠資料) 一覧

### 基準項目 2-1 の資料

【資料 2-1-01】 収容定員及び収容定員充足率の推移 (2019 年 5 月 1 日現在)

【資料 2-1-02】 平成 29 年度私立大学研究ブランディング事業計画書

- 【資料 2-1-03】 本学教職員及び在学生の社会的活躍に関する新聞掲載記事
- 【資料 2-1-04】 地域高校との合同研修会資料
- 【資料 2-1-05】 過去 5 年間の離籍者数
- 【資料 2-1-06】 学校法人福山大学 設置認可等に関わる組織の移行表  
(平成 27 年度・平成 28 年度)
- 【資料 2-1-07】 志願者数、合格者数、入学者数及び入学定員充足率等の推移  
(2019 年 5 月 1 日現在)
- 【資料 2-1-08】 平成 31 年度指定校 (グローバル人材強化) 入学試験要項
- 【資料 2-1-09】 平成 30 年度第 1 回・第 2 回トップテン海外研修実施計画
- 【資料 2-1-10】 メディア・映像学科リーフレット
- 【資料 2-1-11】 平成 31 年度指定校 (芸術・メディア表現枠) 入学試験要項
- 【資料 2-1-12】 平成 31 年度編入学学生募集要項 (メディア・映像学科)
- 【資料 2-1-13】 スマートシステム学科の沿革
- 【資料 2-1-14】 「電気工学コース」及び「電子システムコース」リーフレット
- 【資料 2-1-15】 学校法人福山大学 設置認可等に関わる組織の移行表  
(平成 31 年度・令和 2 年度)

以上